

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月
枚方市立津田小学校

文部科学省が今年4月に実施した令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

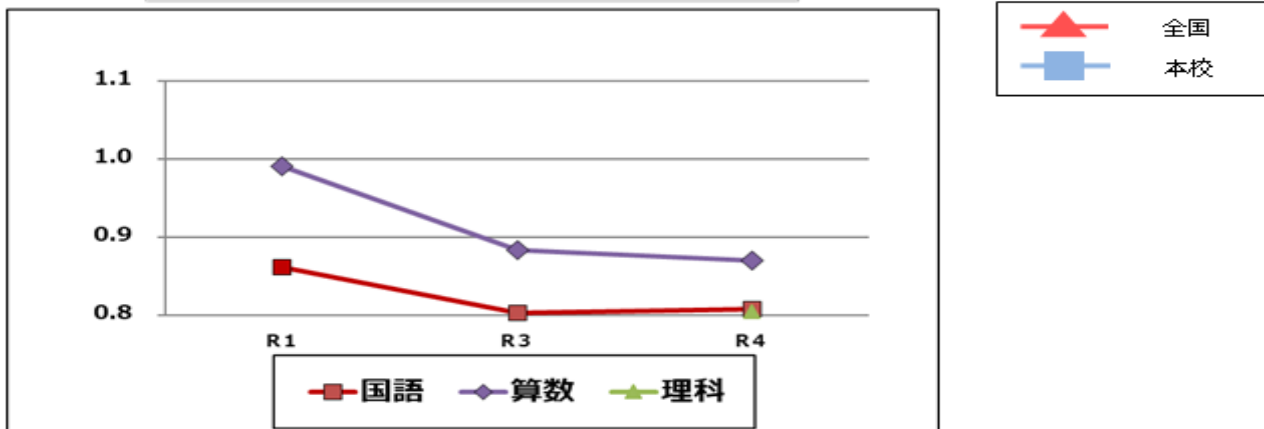
学力調査の結果

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→記述問題で、解答に必要な言葉を選択すること、決められた文字数で解答することなど、基本的な条件をふまえて記述する力に課題のある児童が多い。まずは、問題の意味や内容を理解することが必要。日頃から正しく、美しい表現にたくさん触れ、正しい文章を書く練習が必要である。また、漢字の反復練習、作文や視写などを通して、日常生活において、たくさんの文章に触れる、文を書くときに正しく漢字を使用できるよう指導していくことを意識して取り組んでいく。

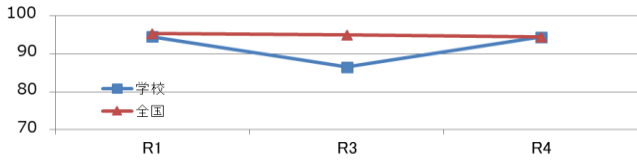
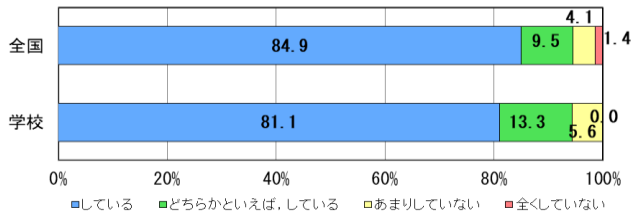
○算数について

→解答の過程において、「自分の考えを言葉と数を使って説明すること」「問題の意味や内容を理解すること」に課題がある。「割合」の問題で、児童の日常生活に身近な「飲み物」の問題だったが、実生活では感覚でできていることも、数学的に考えることになると説明が難しい。「算数 ⇄ 生活体験」という結びつきを生かせるよう指導する必要がある。

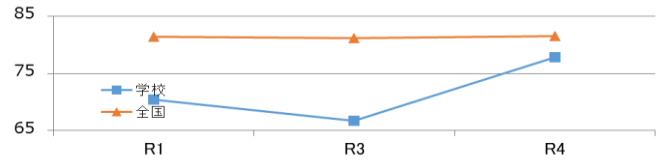
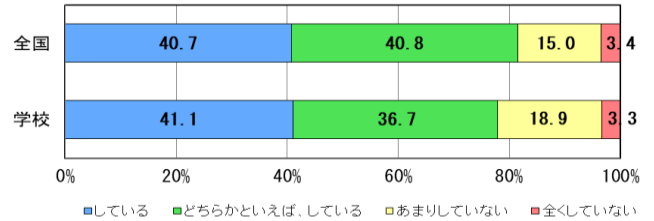
○理科について

→記述式の問題において、文章を書くことに対する苦手意識のある児童が多く、無回答率が他の問題に比べて高くなっている。また、資料のどの部分を使って理由をまとめたらよいのかを見つけることが難しく、記述に必要な言葉が抜けているなど、内容が不完全な文章になっており、「文を書く力」の育成が必要である。

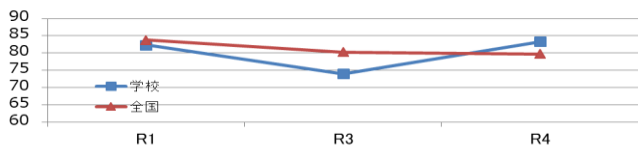
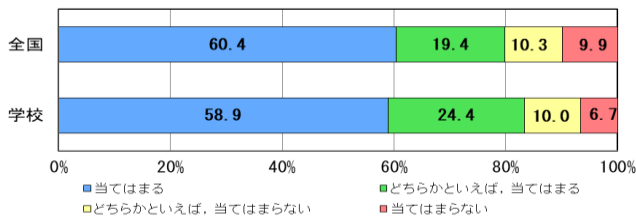
朝食を毎日食べている



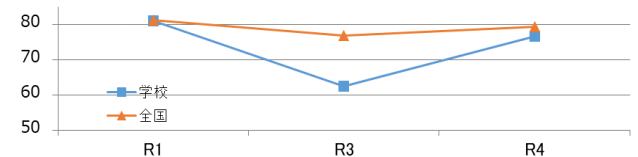
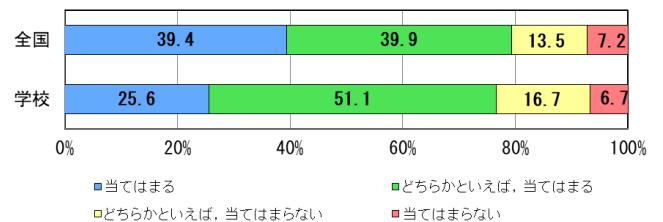
毎日、同じくらいの時刻に寝ている



将来の夢や目標を持っている



自分には、よいところがあると思う



<質問紙調査結果の概要>全国平均より多くの項目が下回っている。多くの項目で令和3年度より向上が見られる。昨年度より、すべての児童に対し、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を実施し、その成果が表れていると考えている。今年度は「授業で生徒指導」をテーマに掲げ、基本的な学習規律・生活規律を確立させるとともに、児童同士、児童と教師などの「つながり」を大切に、主体的な学びにおかす児童の育成に取り組んでいる。将来の夢や目標を持っている児童が平均を上回った。教員が目的意識を持ち、授業づくりに取り組むことで、児童の学力向上に繋がることを期待している。課題としては、「家庭での読書時間」が全国平均を7%下回り、また、校内アンケートでは「日常的な読書」に取り組んでいる児童が53%と低い数値を示している。図書部と連携し、読書活動を推進していく。

まとめ

多くの項目で令和3年度より向上が見られた。昨年度、課題としていた「自己肯定感・自己有用感」を高めるための学習指導・生徒指導が実を結んだものと考えられる。単発的な評価で終わらず、次年度以降も継続していくことが課題である。現在の落ち着いた学校全体の環境を維持し、次年度も引き継いでいきたい。その為には、基本的な学習規律「チャイム着席」「挨拶」を徹底させる。授業づくりにおいても「Hirakataスタンダード」に則り「めあて」「ふりかえり」をし、「何を学んだか」「次は何を学ぶのか」等を児童に考えさせるなど、児童が主体的に学びに向かう「学力向上の取組」を推進したい。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する。

【話し合いの様子の一部】で、谷原さんが ____ 部Aのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 意味を説明することで、同じ音でも複数の漢字があることを知ってもらうため。
- 2 意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別するため。
- 3 くり返し伝えることで、相手の考えを引き出すため。
- 4 くり返し伝えることで、言葉のリズムをよくするため。

	正答率	無解答率
本校	75.3	0
全国	85.5	0.9

(考察)

解答の方法が選択式であったこと、今回のテストのはじめの設問で、「無解答率が0」ということから、意欲的にじっくり考えて、正答を導くことができたのではないかと考えられる。日々の授業を通し、「何事にもあきらめずにチャレンジしよう」という気持ちが育まれたと考える。

また、同音異義語など、日常生活で実際に疑問に思ったことがある経験等から、自分に置き換えて考えることができたのではないかと考えられる。

【課題】

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く。

島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。

次の条件に合わせて書きましょう。

<条件>

- ・文章のよさを書くこと。
- ・文章から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ・六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

	正答率	無解答率
本校	36.0	3.4
全国	59.2	2.5

(考察)

全国と比較して正答率の差が大きく、無解答率が高い。「よさ」を書くこと、言葉や文を取り上げること、字数制限等、条件に合わせて書く必要がある中で、これらが抜けた解答が多い。日頃から自分が伝えたい文章になっているか、条件に合っているかどうかを、読み返して確認することを習慣化させる必要がある。問題自体が最後の方の設問ということもあり、解答する時間が不足したことも予想されるので、問題全体を見通して、時間配分ができるように、予め指導・練習の必要がある。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。

1個入り85円のカップケーキ21個分の値段は、85×21で求めることができます。85×21の答えが、1470より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。アからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 85を小さくみて80、21を小さくみて20として計算します。
- イ 85を小さくみて80、21を大きくみて30として計算します。
- ウ 85を大きくみて90、21を小さくみて20として計算します。
- エ 85を大きくみて90、21を大きくみて30として計算します。

	正答率	無解答率
本校	39.3	1.1
全国	34.8	0.9

(考察)

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考える問題である。

数を大きくとらえるのか、小さくとらえるのか、どちらが良いのかを目的に応じて考える問題で、日常生活に深く関わっており、生活に必要な技能が問われている。全国と比べて正答率が高く、これまでの経験・学習の成果と言える。

【課題】

示されたプログラムについて、正三角形をかきことができる正しいプログラムに書き直す。

はなこさんたちは、一辺が5cmの正三角形をかこうとしています。正三角形のプログラムをもとにして、正三角形をかきためのプログラムをつくり、実行しましたが、かきできませんでした。そこでつくったプログラムを見直すことにしました。かこうとした正三角形をかきには、どちらの命令を直すとよいですか。

下のアとイから選んで、その記号を書きましよう。また、その選んだ命令を言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましよう。

- ア 5cmの直線を引く。
- イ 左に60°回転する。

	正答率	無解答率
本校	29.2	0
全国	48.8	0.6

(考察)

正三角形の意味や性質をもとに、図形を構成する要素に着目して考察し、言葉と数を用いて記述する問題である。正三角形の性質だけでなく、記述するための条件を入れることも必須であり、まずは、問題の主旨を理解することが重要となる。

三角形の内角の和、内角と外角の大きさの関係を理解するところから復習させ、他の図形の場合はどうなるのかなど、理解できているかどうかを確認する必要がある。

<理科>

成果や課題があった設問

【成果】 水 50mL をはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ。

メスシリンダーに次の図のように、50 の目盛りよりも下まで水を入れました。50mL の水をはかりとりためには、このあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 2mL
- 2 3mL
- 3 4mL
- 4 6mL

	正答率	無解答率
本校	69.7	0
全国	70.0	0.6

(考察)

メスシリンダー内の水の体積を誤って読み取る可能性が高く、目盛りの読み方を理解していることが大切な問題である。また、「メスシリンダー」「スポイト」等理科の基本的な器具の名前や使い方をすることは、実験を行う上で重要である。

この問題は、全国と比べて正答率の差が小さく、メスシリンダーの正しい扱い方を理解している児童が多いことがわかる。

【課題】

凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を記述する。

砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。

たろうさん：水をこおらせた物は、紅茶にうくのくに、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

りかこさん：水に入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

はるとさん：砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を 1 つ書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	20.2	15.7
全国	32.7	8.7

(考察)

全国的にも正答率が低く、また無解答率が高い。本校の児童は問題の意味が理解できていないと考えられる。

自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈した上で、自分の考えを記述する問題である。日常の授業では触れる経験のない形式の問題であるため、このような形式の問題にくり返し取り組み、慣れさせる必要がある。

質問紙に関する調査

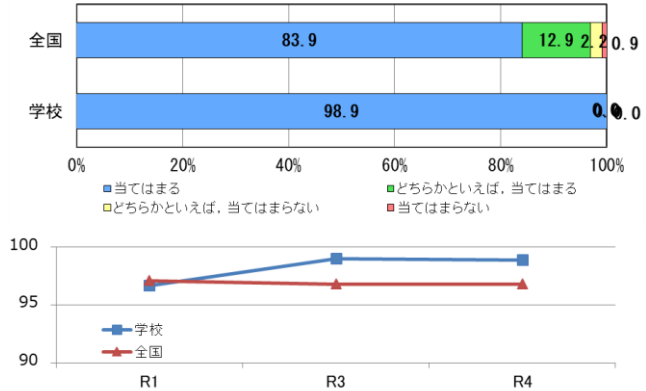
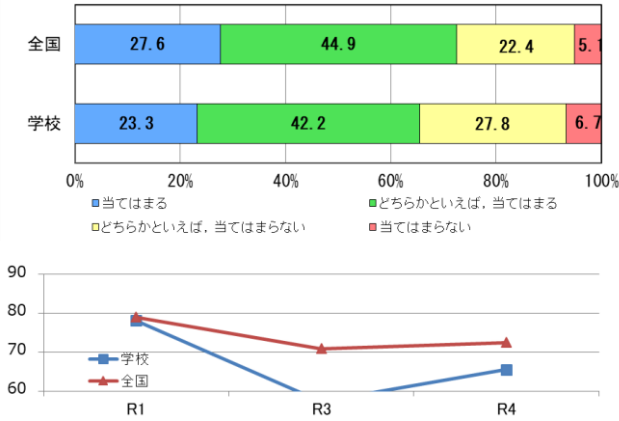
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

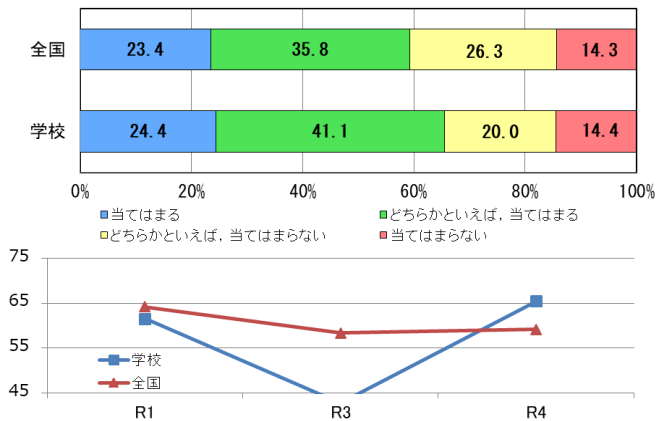
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。

▲ 全国
■ 本校



国語の勉強は好きです。



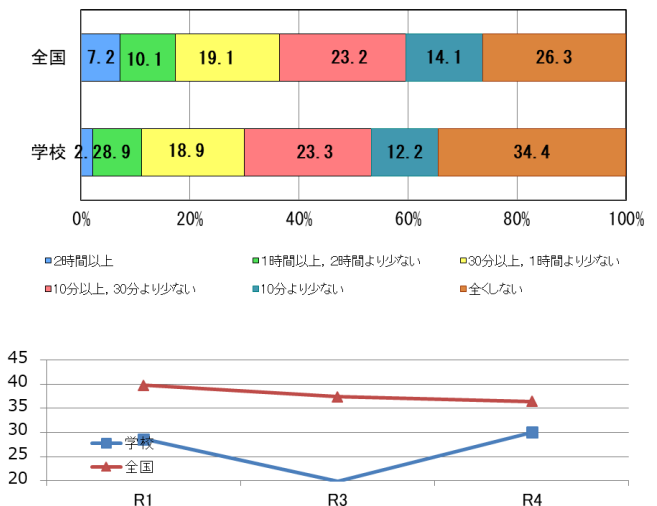
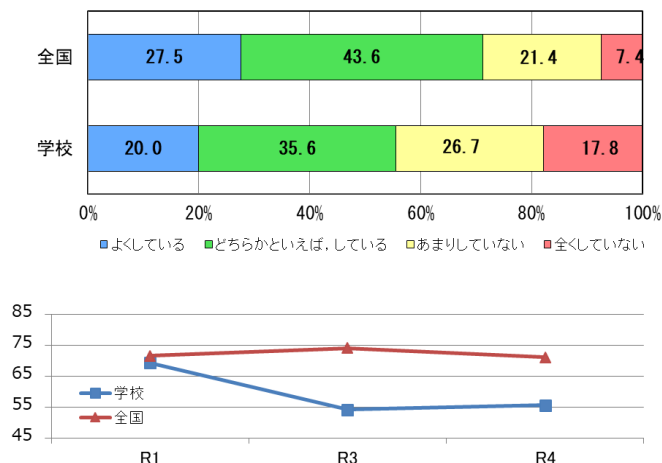
(考察)

令和3年と比較し、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」が上昇に転じた。将来の夢や目標を持っている児童が多く、その影響もあると考えられる。関連して、「国語の授業が好き」と答えた児童も全国平均を上回った。日々の教育活動に前向きに取り組んでいる成果が出たと考えられる。国語はすべての学習につながる「読む・書く・話す」の基礎となる。今後も児童の学習意欲を大切に、魅力ある授業づくりを行っていきたい。日頃から児童や保護者の声を丁寧に聴き取り、思いに寄り添うとともに、児童一人ひとりの様子を観察し、仲間意識を醸成していることが、いじめに対する意識を高めている。いじめに関しては組織的体制を構築しスピード感をもって対応している。児童の安心安全を第一に考え、これからも継続して「魅力ある学校づくり」を推進していく。

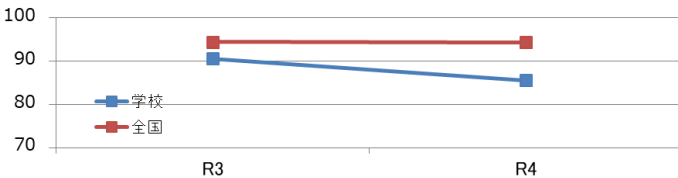
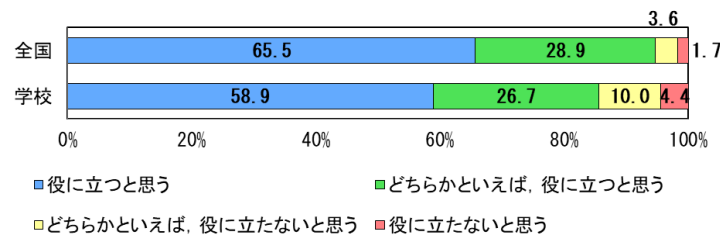
【課題が残った項目】

自分で計画を立てて勉強している。

学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



学習の中で PC、タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



(考察)

すべての教科において全国・大阪府平均を下回っている。また、教員の指示通りに動き、学習する受動的な能力はあるが、「主体的に学ぶ」という点に課題がある。すべての児童にとって「わかる授業」をするためにも ICT を積極的に活用していきたい。「タブレットドリル」の活用は、各学年、各学級において使用頻度にバラつきが見られる。授業での隙間時間、家庭での学習等、効果的に使用できるように促進していく。「ロイロノート」において、模範解答の掲示、提出物の管理、カメラ機能等を活用し、より魅力ある授業を展開していけるよう、組織的に取り組んでいく。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

<基本的な学力の定着>

漢字や計算等、反復練習の徹底を行う。授業中の隙間時間や家庭学習に「タブレットドリル」等の ICT 機器を活用する。また、授業では、「具体物」を使うなど、学習課題を具体的にとらえ、解決のための見通しを持ち、解決できるよう指導・支援する。さらに、「チャイム着席」等の学習規律の徹底を行って環境を整えるとともに、児童の学習に向かう気持ちを高めさせる。

<「めあて」「ふりかえり」を大切に>

児童自身が「何を学習する(した)」のかを認識できるように、教員が、各教科において目的意識を持って取り組む。児童に「次は何を学習するのか」を意識させ、ゴールが明確にわかる授業づくりをする。

<「逆向き設定」を意識して>

教員は、児童に何を学ばせたいのかを常に意識し、「めあて」に到達するためにはどう授業を展開すればよいのか、全体を見通した授業づくりをする。そのために、校内研修等をさらに充実させていく。

(2) 家庭学習について

<家庭との連携>

「宿題は家庭でする」という習慣がつくよう、保護者に協力をお願いする。また、「スマートフォンや携帯ゲーム機などの使い方」について家庭における約束事等を確認し、家庭において徹底していただく。

<ICT 機器の活用>

児童の学習進度や苦手な単元に合わせてタブレットドリルをするなど、家庭学習で活用する。

<自主学習の取組>

自分が調べたいことに対して、児童自身が「めあて」を持って取り組めるよう指導する。また、それを友だちと見せ合ったり、意見交流をしたりするなど、児童同士が互いに高め合えるような機会を設定する。

*読書活動の定着に向けての取組を実施

*家庭学習での「予習」「復習」に取り組む。(タブレットドリル等を活用)